

浄泉寺報

第23号
2020年
報恩講



2020年11月29日のおみがき
9名の方にご参加いただき、報
恩講に向けて仏具磨きを行いま
した。ありがとうございます。

「報恩講」に出遇う

浄泉寺住職 望月廣三

宗教って、何ですか？と問われ
れば即座に、「新しい人生の意味
を発見するためです」と答えます。
今の自分に満足していない、何
とかして変えたい、どうしたら変
えられるか、と思悩んでいる人
はじつに素晴らしい方です。なぜ
なら、今の「自分」に満足してい
る人にはけっして「新しい人生の
意味」は発見できないからです。
この世はその日その日が愉し

くさえあればいい、難しいことな
ど考える必要はないのだ、と主張
して止まない人が本当に多いの
ですが、そんなことではきつと、
つまり人生に終わってしまう
でしょう。いや、あるいはつまら
ぬ人生を送っているから、つい
「難しいことを考える必要がな
い」などと言い張るのかもしれま
せんね。

「報恩講」はそんな頑なな「自
分」を変革する貴重な法縁です。
仏教の救いは何といっても「満足
できない」自分の変革です。それ
にはまず、お釈迦様や親鸞聖人の
教えに耳を傾けねばなりません。
仏さまの教えは暗闇を歩く足も
とを照らす「カンテラ」(照明具)
です。この「暗闇」は愉しくさえ
あればいいとする人生に対する
無知な自分のことにちがいない
でしょう。どうか、この「カンテ
ラ」をご聴聞ください。

浄泉寺からのお知らせ

●春のお彼岸●

お参りの日程は、三月上旬にお葉
書でお知らせします。ご予約くだ
さい。

●同朋会●

浄泉寺では、毎月お勤めと住職の法話
を中心にした同朋会を開催していま
す。どなたでもお気軽にご参加いた
できますので、ぜひお越しください。
日程等の問合せは浄泉寺まで。

浄泉寺からのお勧め！

「正信偈」を書写してオリジナルのお
勤めの本を作りませんか？



お求めは、浄泉寺まで。(価格¥2,000-)

～ 浄泉寺からご門徒の皆さんへのお願い ～

しゅうそしんらんしょうにん りつぎょうかいしゅう きょうさん こんし
宗祖親鸞聖人御誕生 850 年・立教開宗 800 年慶讃事業へのご懇志をお願いいたします。

来たる 2023 年、宗祖親鸞聖人御誕生 850 年・立教開宗 800 年慶讃法要が本山・東本願寺で勤
まります。この法要は、かけがえのない仏教の教え(念仏)を私たちに伝えてくださった親鸞
聖人の御誕生と、親鸞聖人が『教行信証』を著して本願念仏の教えを顕かにされたことを慶び、
私自身が「人と生まれたことの意味」をたずねる大切な機縁としてお勤めします。

そして、法要を機縁として、教えを次世代に伝えるための様々な取り組みのため、本山から
懇志の依頼がきています。すでに納入くださった方も多数おられますが、全てのご門徒の皆様
からのご懇志(1口1万円)の協力をお願いいたします。[2022 年末迄にお納めください。]

「若坊守のひとりごと」
 今年は新型コロナウイルスによって、世の中が不安で満ち、本当に困難な1年であったと思います。そんなコロナ禍でお見舞いに行けないまま、祖母が他界しました。新しい方々と通夜・葬儀を勤め、祖母を見送りました。娘は初めての葬儀に少し怯えていました。死んだ人を見るのが初めてだったのです。それでも祖母への短い手紙を棺に入れていました。
 人はいつか死ぬものだと言々教えていましたが、息をひきとり棺の中で横たわる祖母に、皆が涙ながらにお別れを告げ、最後はお骨が焼けた熱を頬に感じながら、お骨を拾って小さな骨壺に入れるまでを見届けたことは、どんな話をするより娘の心に何かを残したようです。娘が祖母に最後に会ったのはかなり前になりますが、いつか終える命を皆平等に生きていると最後に祖母から教えられたと思います。
 祖母の頬や髪に何度も触れ、私も同じことを改めて教えてもらいました。死は私の中にあつて、それは生きることと常に寄り添い、この命を成り立たせているのです。
 (浄泉寺若坊守・釋尼彌名)

お内仏(仏壇)に座る ② ～ 智慧の灯明 ～

報恩講では、ご本尊と親鸞聖人の御影の前の鶴亀の燭台(ご本尊前の鶴亀は、普段は1つですが、報恩講では左右一対)に、普段よりも大きな朱蠟が灯されます。この蠟燭の大きさにも、報恩講が最も大切な法要であるということが表されています。



本堂やお内仏(仏壇)のお荘厳にはそれぞれ意味があり、灯明は、私たちのありのままの姿を照らし出す仏様の智慧のはたらきを表しているといわれています。私たちがお勤めする「帰命無量寿如来」の『正信偈』の冒頭にも「南無不可思議光…《中略》…普放無量無辺光・無碍無对光炎王・清浄歓喜智慧光・不断難思無称光・超日月光照塵刹・一切群生蒙光照…」と、我が身を照らし出す仏様のはたらきとして「光」のことが謳われています。次に『正信偈』をお勤めする時には、ぜひ「光」のはたらきを確かめながらお勤めをしてみてください。

令和3年(2021年)年忌表

ご法事(年忌法要)は、亡き人をご縁に、仏さまの教えを、今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	令和2年(2020年)亡
三回忌	平成31 令和元年(2019年)亡
七回忌	平成27年(2015年)亡
十三回忌	平成21年(2009年)亡
十七回忌	平成17年(2005年)亡
二十五回忌	平成9年(1997年)亡
三十三回忌	昭和64 平成元年(1989年)亡
五十回忌	昭和47年(1972年)亡

さて、光に遇う、すなわち仏様の教えに教えられるということはどういうことかといえ、嘘偽りなき自らの姿を言い当てられるということに他なりません。それは、どこまでも煩惱を一杯抱えて、それが良いとか悪いとかいった人間の正義や道徳ではなく、今ここに在る私という存在のまるごとの発見なのです。智慧の光に照らされ、私の身の事実を確かめる報恩講です。(浄泉寺若院・釋亜世)

<発行元・問い合わせ>



真宗大谷派 楠林山 浄泉寺 電話 0799-22-4798
 〒656-0026 洲本市栄町4-3-43
 ホームページ <http://jyosenji.asei.info>